

よ・たち

美肌 つし

Vol. 24

7

月号



今月号の表紙は、23歳の女性が描いて下さいました。
趣味は買い物と旅行。
特に風情の感じられる落ち着いた場所に行く事が好きで、
癒しを求めて出掛けるそうです。



豊郷 Tachikawa Clinic

たちかわ皮ふ科クリニック*

「感謝」する事が出来る人は「素直」であり、「素直」が身につけば「感謝」することが出来る人になる。

逆にこれらの片方でも欠けている人はその両方が欠けることになると思います。つまりこれらは常に連動している歯車の様なものであり、どちらか一つが身につけば必ずともう片方は付いてくるものと感じます。

朝無事に起床できた事に感謝する。目が見える事・口がきける事・耳が聞こえる事に感謝する。

自分や家族が健康であることに感謝する。この「感謝」が出来るということはもう既に「素直」である事なのだと思いますがいかがでしょうか。

また、素直である人は「受容」することが出来ます。

例えば連日庭の掃除をする様に上司に言われたとします。その人の職種と掃除は直接関係なかったのですが、その人は一所懸命に言われた通り掃除をしました。するとある日突然、こうゆう風にした方がもっときれいになる。とか、植木の間を掃除していてもいつもより葉が多く落ちているので、その落ち方はもしかして植木が痛んでいるのではないかと水をかけてやらなければいけないのでは？と考える様になる。実際にはそこまで分からなくても植木職人に相談してみるという行動にでる。するとその人はそれだけで植木を救っていることになるのです。植木を助けただけでなく、その一所懸命さはまともな上司であれば必ず伝わります。そしてその人には次の仕事を与えられるのだと思います。しかし普通未満の人は、自分の職種と関係がないという事で掃除を疎かにして植木を枯らしたり、ゴミを落としたままにします。それを見た上司がどう思うかは誰の目にも明らかでしょう。同じ掃除でも数ヶ月の間には雲泥の差がつく訳です。こうゆう人の仕事が伸びることはないでしょう。受容できない人に素直な人はいなく、そうゆう人は感謝することはないので全てにおいて、きっと頭打ちになってしまうでしょう。

例の有名な信長と秀吉の草履の話も、異なった 2 つの見方がある様です。雪の降る中草履取りだった秀吉が、信長が履く時に草履が冷たいといけないということから、温めてあげた方が良からうと信長を想い自分の懐に入れておいたという話がある一方で、百姓の身分から太閤にまで上りつめる位の人物なので、実際は尻に敷いていたが信長にその事がばれた為に機転を利かせ懐に入れて温めていましたと弁明し難を逃れたという説もあります。しかし私は前者であると信じたい。なぜならそれは、偉い人とは自分に与えられた環境の中で人を呪ったり不平不満を言ったりせず、精いっぱい努力をしているから立身する（伸

びる) のだと思うからです。又、その要諦にあるものはきっと「感謝」と「素直」という
清い心なのだと思うのです。

院長：刀川